

石巻医療圏 健康・生活復興協議会

12月 在宅被災世帯状況報告会

平成25年1月22日

石巻医療圏 健康・生活復興協議会

ご連絡・注意事項

16:00	代表者挨拶、当協議会事業概要	5分
16:05	戸別訪問聞き取り 進捗報告	5分
16:10	戸別訪問聞き取り 結果報告	10分
16:20	専門職サポート 活動報告	5分
16:25	その他活動報告	20分
16:45	質疑応答	10分
17:00	閉会	

リリース情報

組織概要

- 石巻医療圏の在宅被災世帯を対象に
戸別訪問聞き取りと、専門職支援を行う
- 平成23年10月より活動を開始、年度末
までに8,604世帯を戸別訪問し、
4,023世帯の聞き取りを実施した。
- 聞き取り世帯のうち、約4割(1,545件)が支援を必要として
いた
- 医師や看護師、ソーシャルワーカーなどによる医療介護福
祉支援に加え、住環境や物資支援など生活支援も実施した



石巻医療圏 健康・生活復興協議会概要

- 平成24年度は石巻市委託事業として、主に専門職による健康支援を実施している
- 地域の行政機関等と連携し、身体や精神面、ソーシャル問題、住環境の問題等に対して個別支援を行っている
- その他移動型コミュニティバスや心のケアイベント等、集団支援を行っている



訪問調査



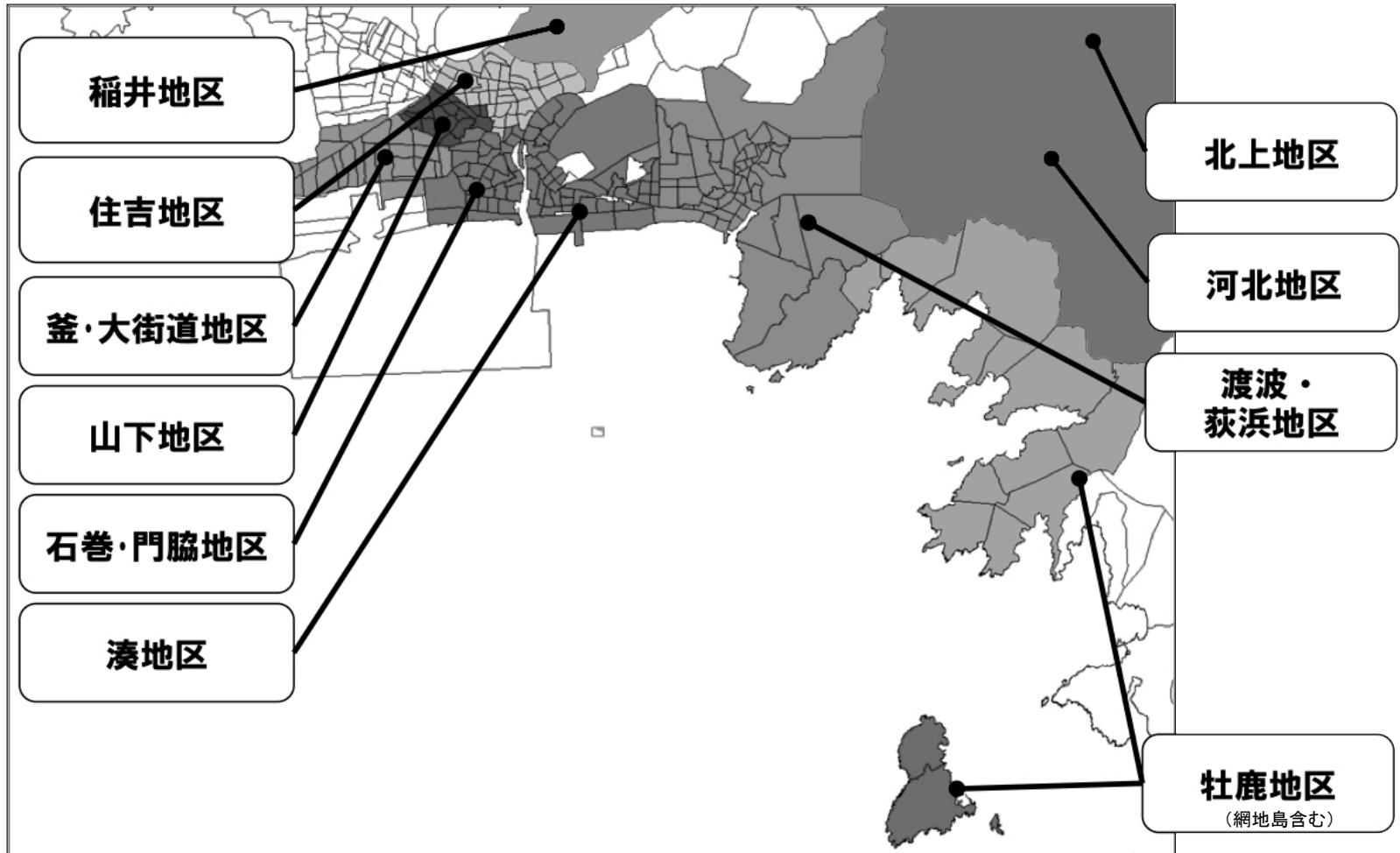
専門職フォロー



コミュニティ支援

活動エリア

現在、中里地区に拠点を設置し、住吉・湊・渡波・大街道・石巻門脇・山下・牡鹿・北上・河北の各地区の浸水被害があったエリアで活動している



活動全体図

聞き取り問
判定



※は石巻市委託団体

戸別訪問聞き取り 進捗報告

1. 戸別訪問聞き取り 進捗報告 ~全体

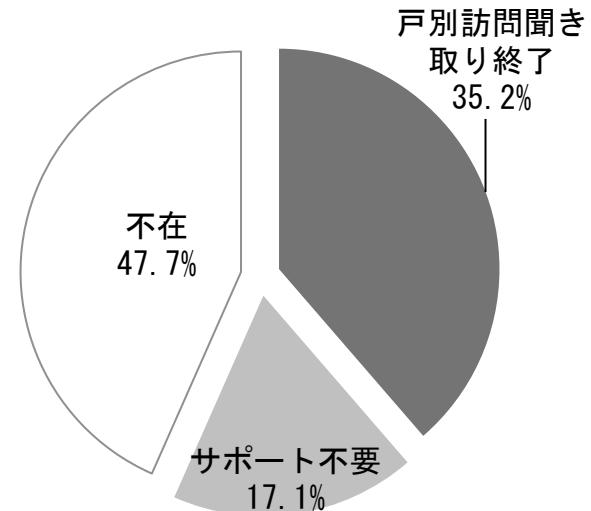
■2012年4月1日～2012年12月26日に行った、戸別訪問聞き取りの実績。

5割以上が在宅、うち、約35%につき聞き取りを行った。

12月は、第一期に訪問した渡波地区で、当時は不在だった世帯およびその後移住してきた世帯を中心にアセスメントを実施した。

[全体]

訪問計画	約 11,500世帯
訪問件数	11,452世帯
在宅	5,995世帯
戸別訪問聞き取り終了	4,032世帯
サポート不要	1,963世帯
不在	5,457世帯



※戸別訪問した際に、不在の場合は「在宅訪問聞き取り調査について」という不在票を残し、後日ご連絡をいただいたお宅へ再度訪問をしています。これにより、対象世帯を網羅します。

2. 戸別訪問聞き取り 進捗報告 ~地域別

■2012年4月1日～2012年12月26日に行った戸別訪問聞き取りの実績を地域別にまとめたもの。

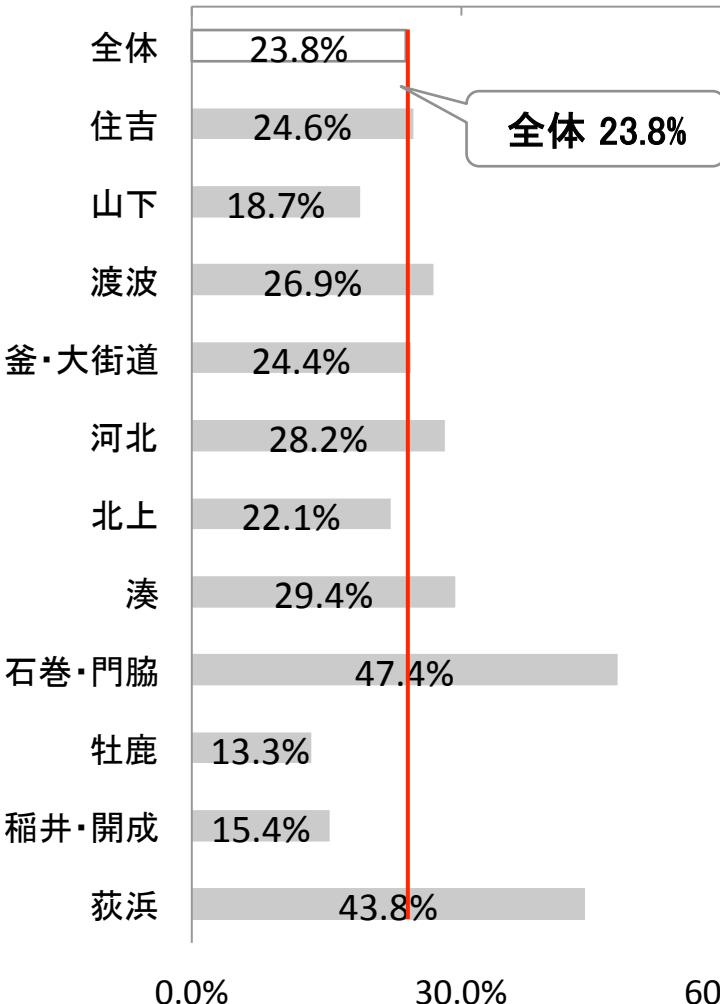
地域	全体	住吉		湊		渡波		釜・大街道		山下		石巻・門脇		
		件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	
在宅	聞き取り終了	4,032	1,388	40%	143	36%	595	25%	350	26%	796	35%	79	37%
	サポート不要	1,963	722	21%	45	11%	406	17%	179	13%	396	17%	46	21%
不在		5,457	1,376	39%	209	53%	1,421	59%	814	61%	1,072	47%	91	42%
訪問合計		11,452	3,486	100%	397	100%	2,422	100%	1,343	100%	2,264	100%	216	100%

地域	全体	稻井・開成		萩浜		牡鹿		北上		河北		その他		
		件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	
在宅	聞き取り終了	4,032	52	47%	16	0%	196	0%	228	0%	188	0%	1	100%
	サポート不要	1,963	24	22%	0	0%	28	0%	73	0%	44	0%	0	0%
不在		5,457	34	31%	10	0%	125	0%	182	0%	123	0%	0	0%
訪問合計		11,452	110	100%	26	0%	349	0%	483	0%	355	0%	1	100%

戸別訪問聞き取り 結果報告（一部抜粋）

1. 約1/4の在宅被災世帯で、震災前後で世帯人数に変化あり

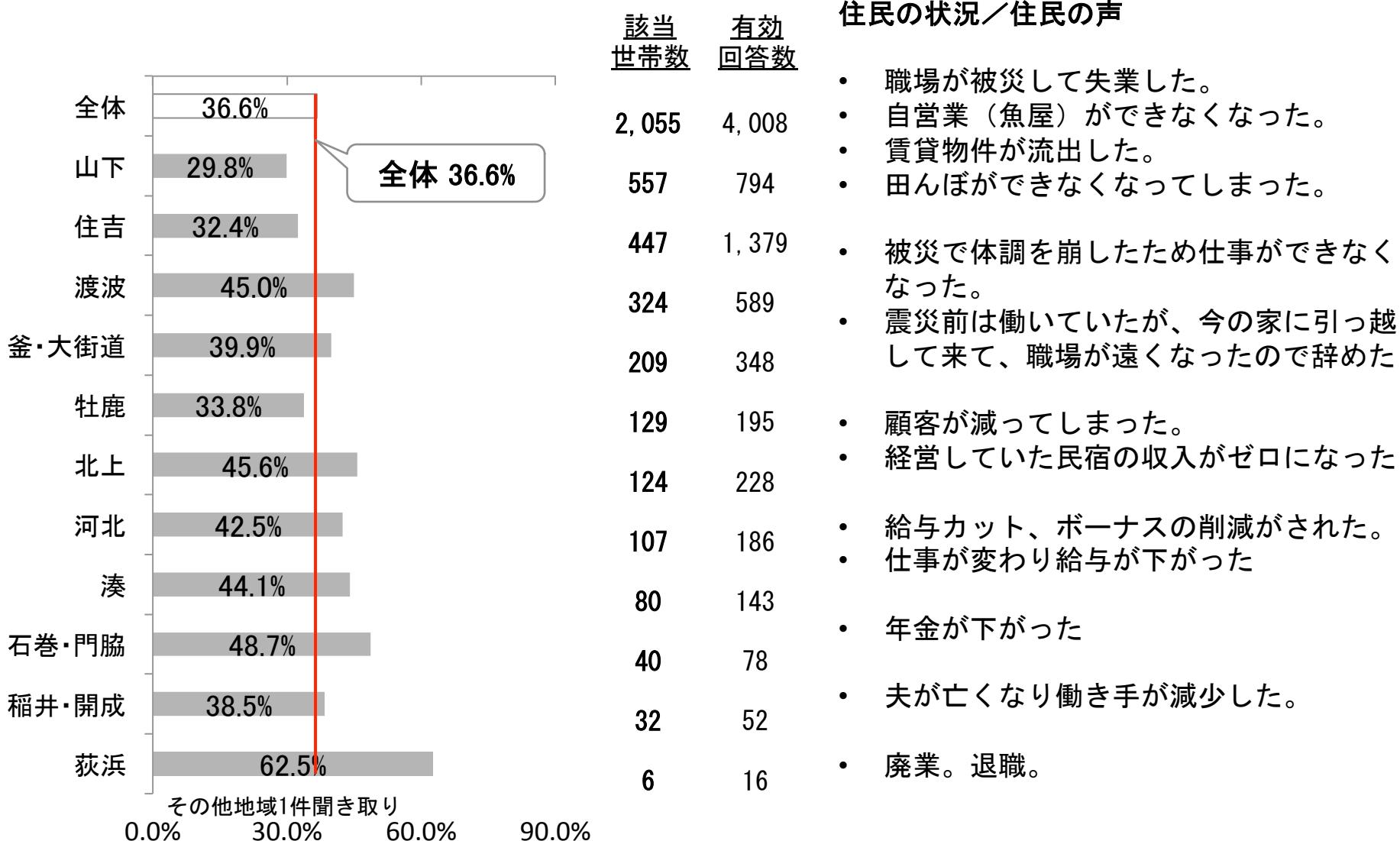
■「震災前から震災後で世帯の人数変化はありましたか(一時的含む)」の質問に対し、「有り」と回答した世帯の割合、および世帯数。



該当世帯数	有効回答数	住民の状況／住民の声
959	4023	・震災前は鮎川町に夫婦と、世帯主の両親が隣同士で住んでいたが、津波で全壊し、渡波で一緒に住む様になった。
341	1384	・災害に有った他の家族が、こちらの家に同居することになった。
149	796	
160	594	・震災前は4世帯7人家族だったが、家が全壊になり、それぞれ別に仮設に入り、バラバラに暮らしている。
85	349	
53	188	・子供・孫などが仕事や進学、結婚の為にほかの土地（塩釜・仙台・東京・神奈川・千葉・熊本・京都など）に引越した。
50	226	
42	143	・震災や病気で死別。
37	78	
26	196	・地震、津波による精神的ダメージで妻が現在関西で治療中。
8	52	・家族が施設に入居した。
7	16	・子供が生まれて家族が増えた。

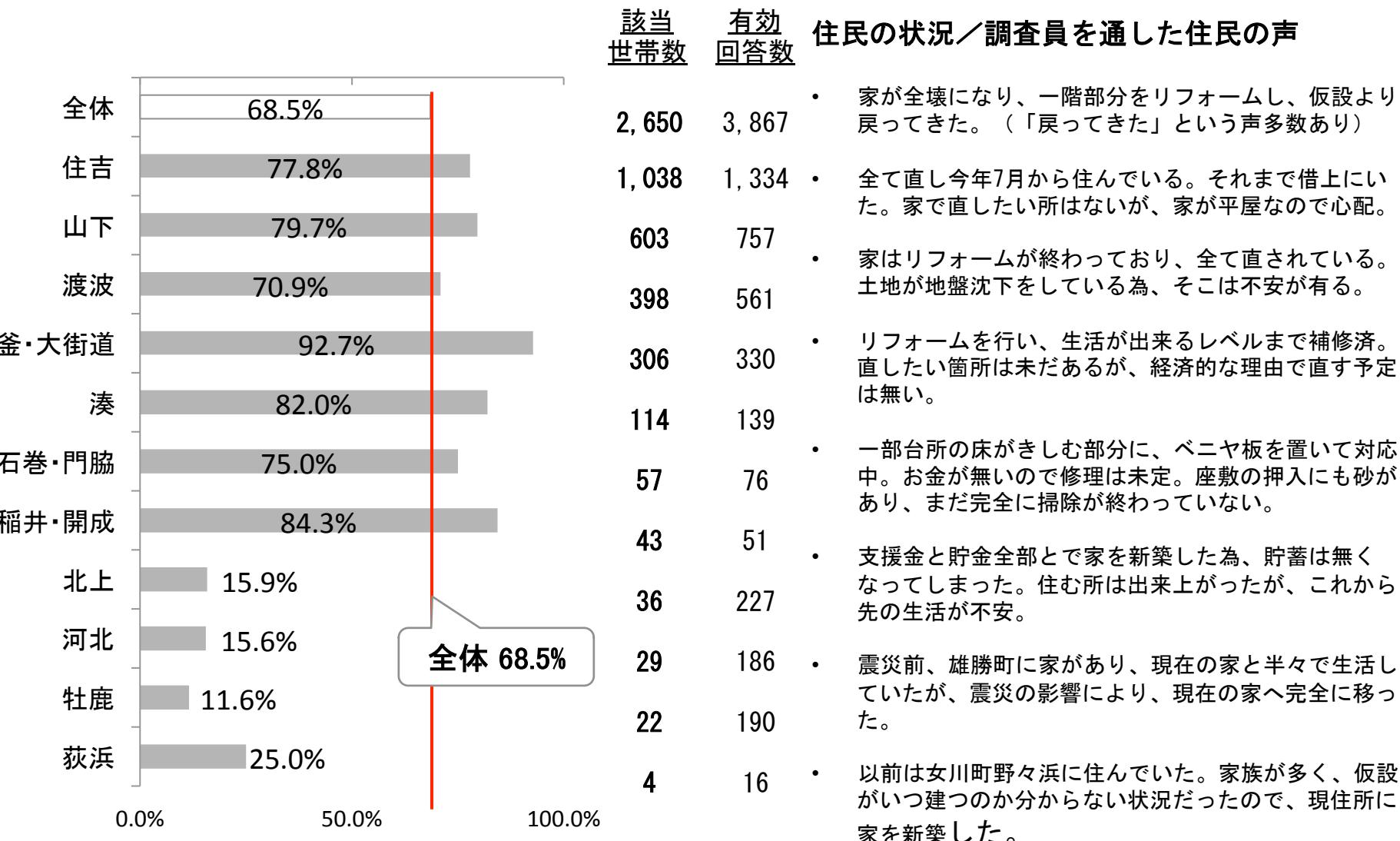
2. 約1/3以上の在宅被災世帯で、震災前後の収入に変化あり

■「震災前に比べて収入に変化がありました」の質問に対し、「有り」と回答した世帯の 割合、および世帯数。



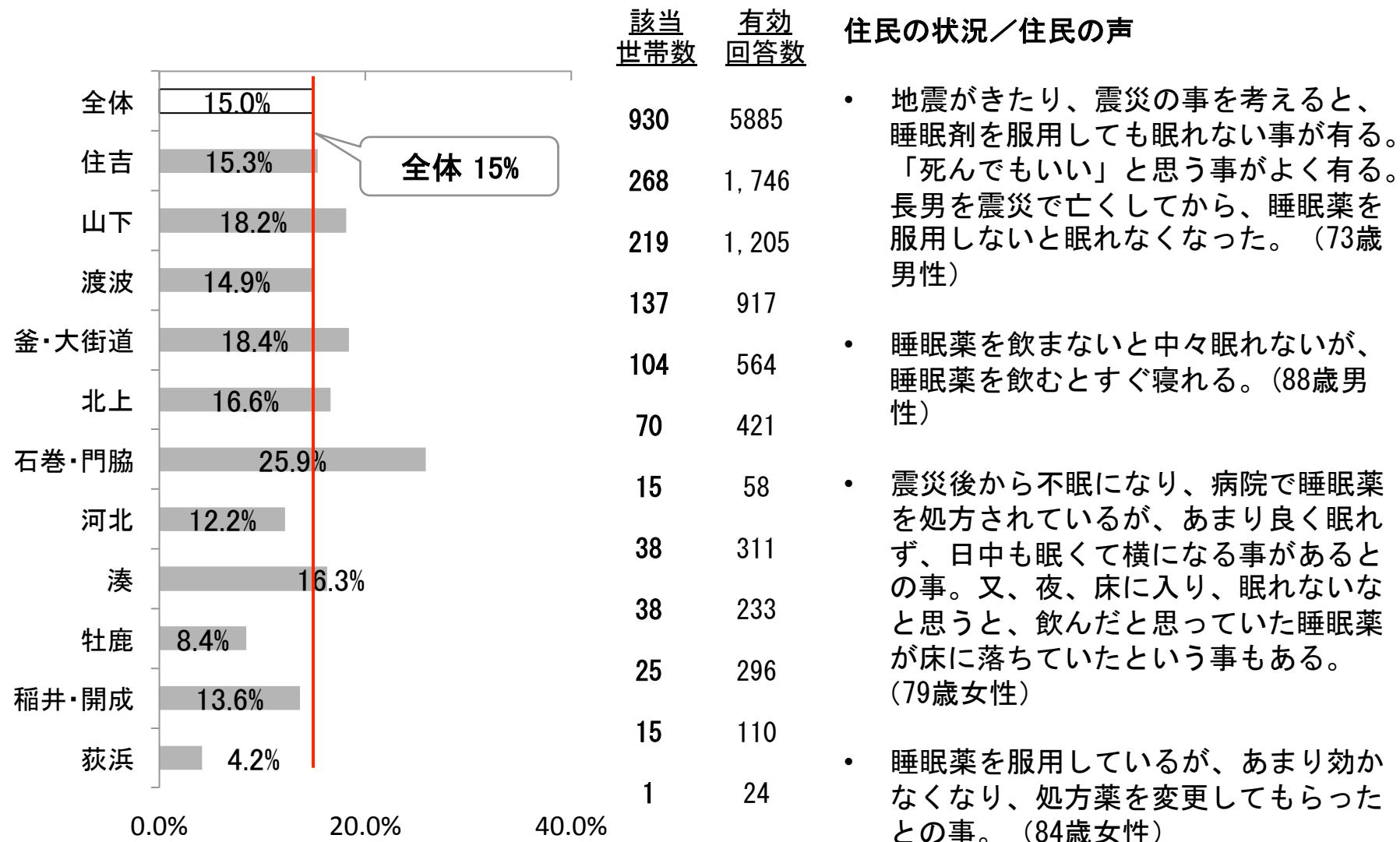
3. 約70%の在宅被災世帯が、大規模半壊以上の認定を受けている

■ 「現居住地の市役所が判定した損壊状況は何でしたか」の質問に対し、「全壊」「大規模半壊」と回答した世帯の割合、および世帯数。



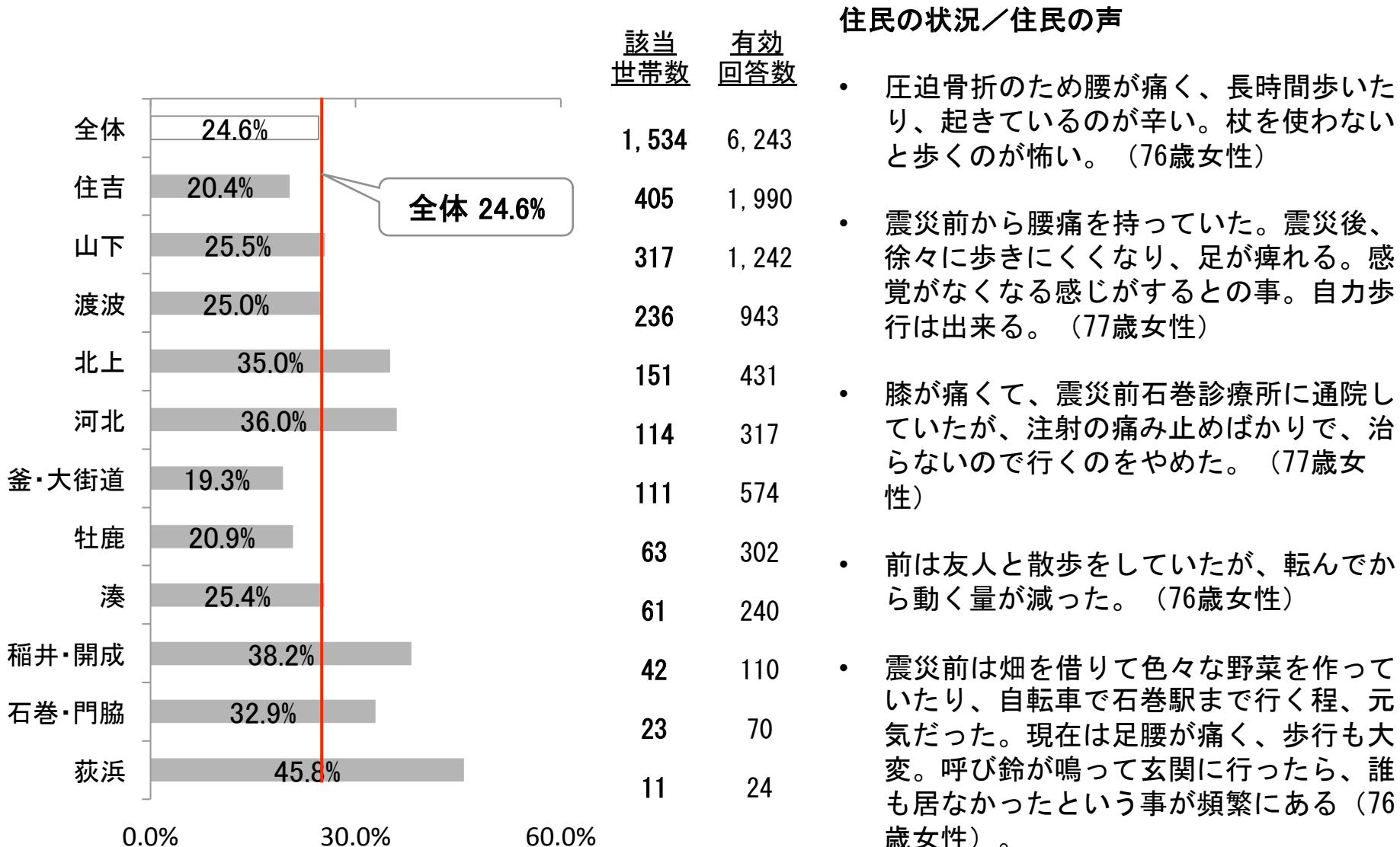
4. 約15%の在宅被災者が、睡眠に支障をきたしている

■「睡眠の乱れのため困っていることはありませんか」の質問に対し、何らかの問題があると回答した個人の割合、および個人数。



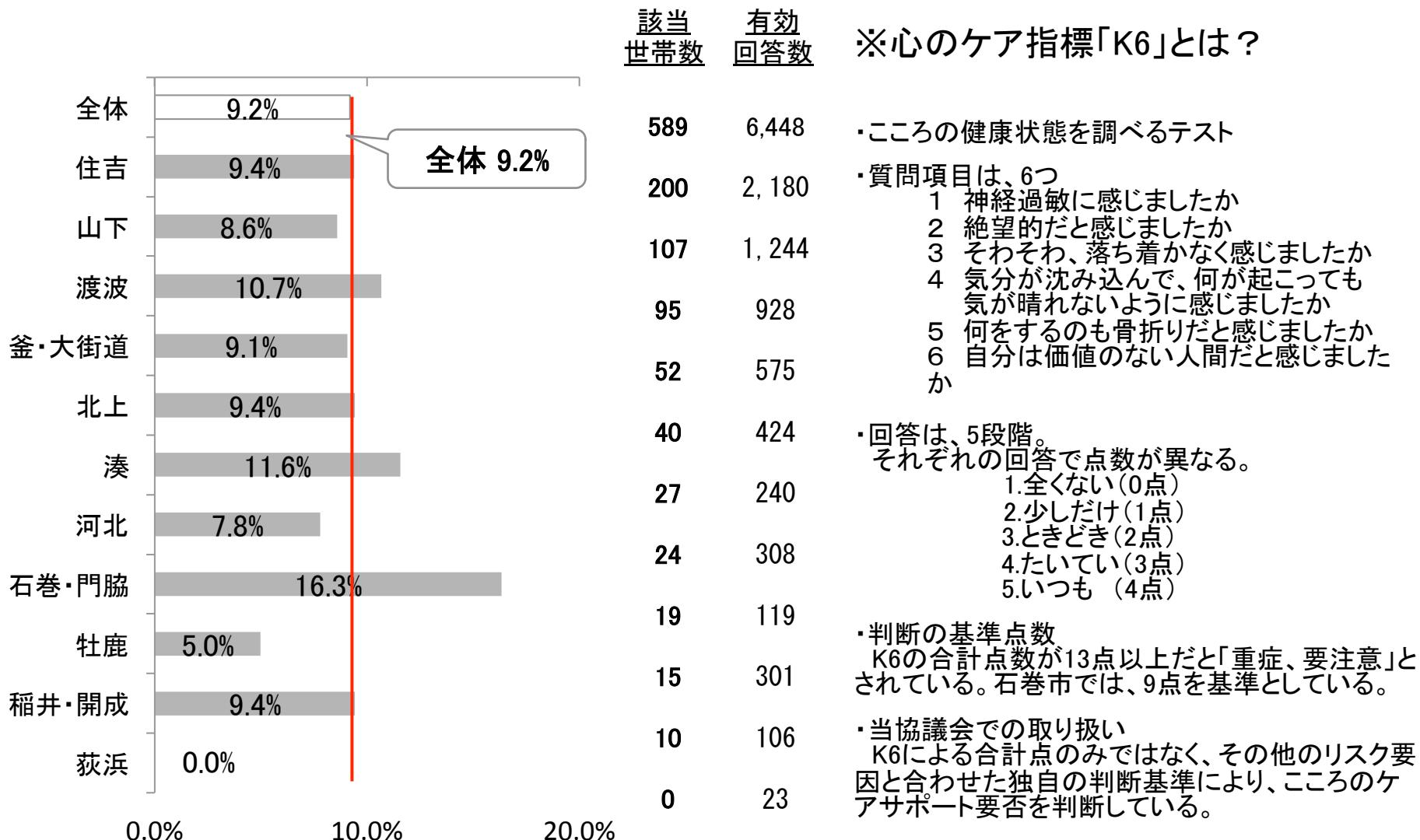
5. 約25%の在宅被災者が、週に1~2度以下の外出しかしていない

■「一週間に何度外出しますか」の質問に対し、「週に1~2回以下」と回答した個人の割合、および個人数。



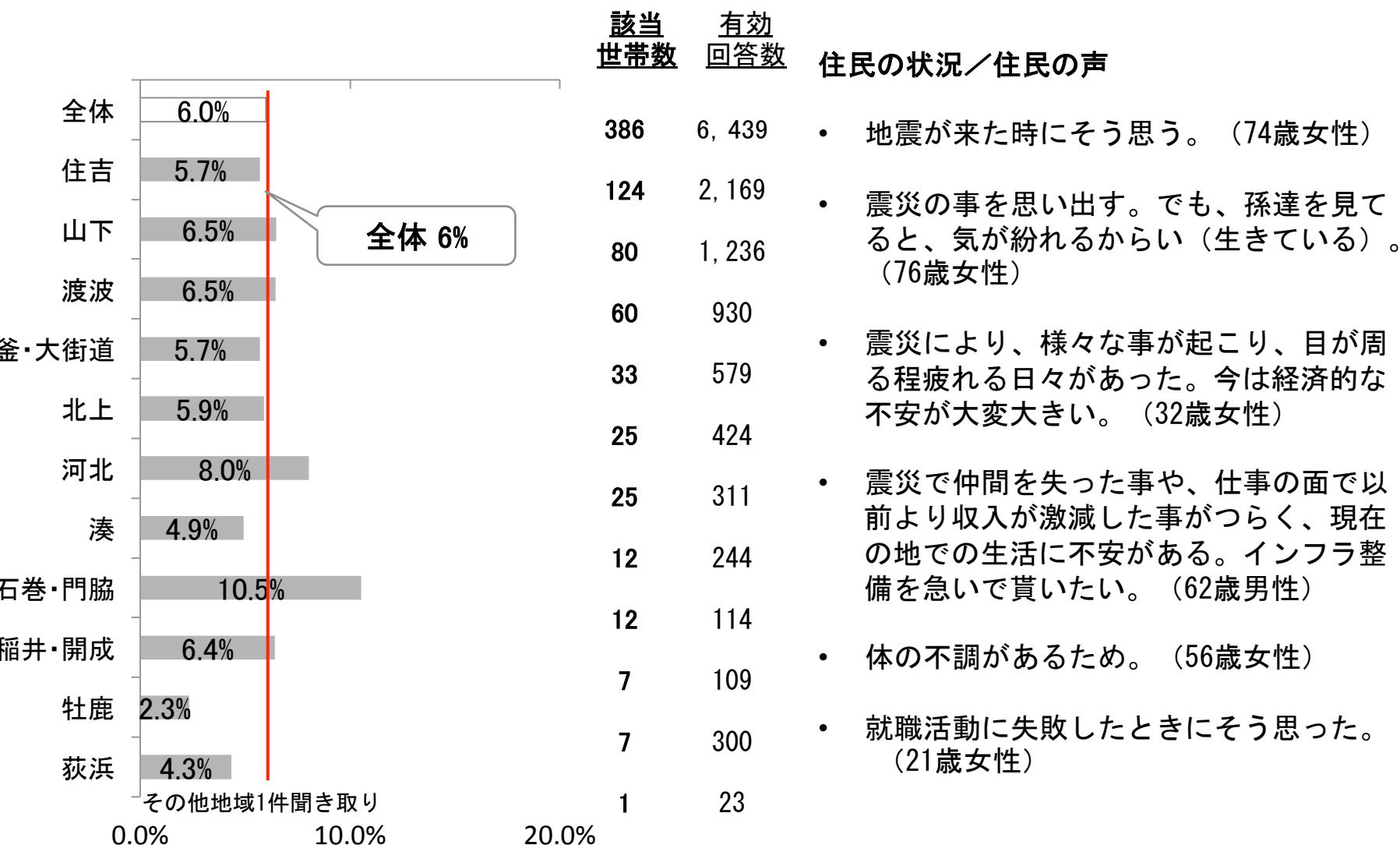
6. 約10%の在宅被災者が、心のケアが必要な基準を超えている

■ 「心のケア指標(K6)」の点数合計が「重症、要注意」基準の9点を超えた個人の割合、および個人数。



7. 約6%の在宅被災者が「生きる希望がない・死んだ方がまし」と感じている

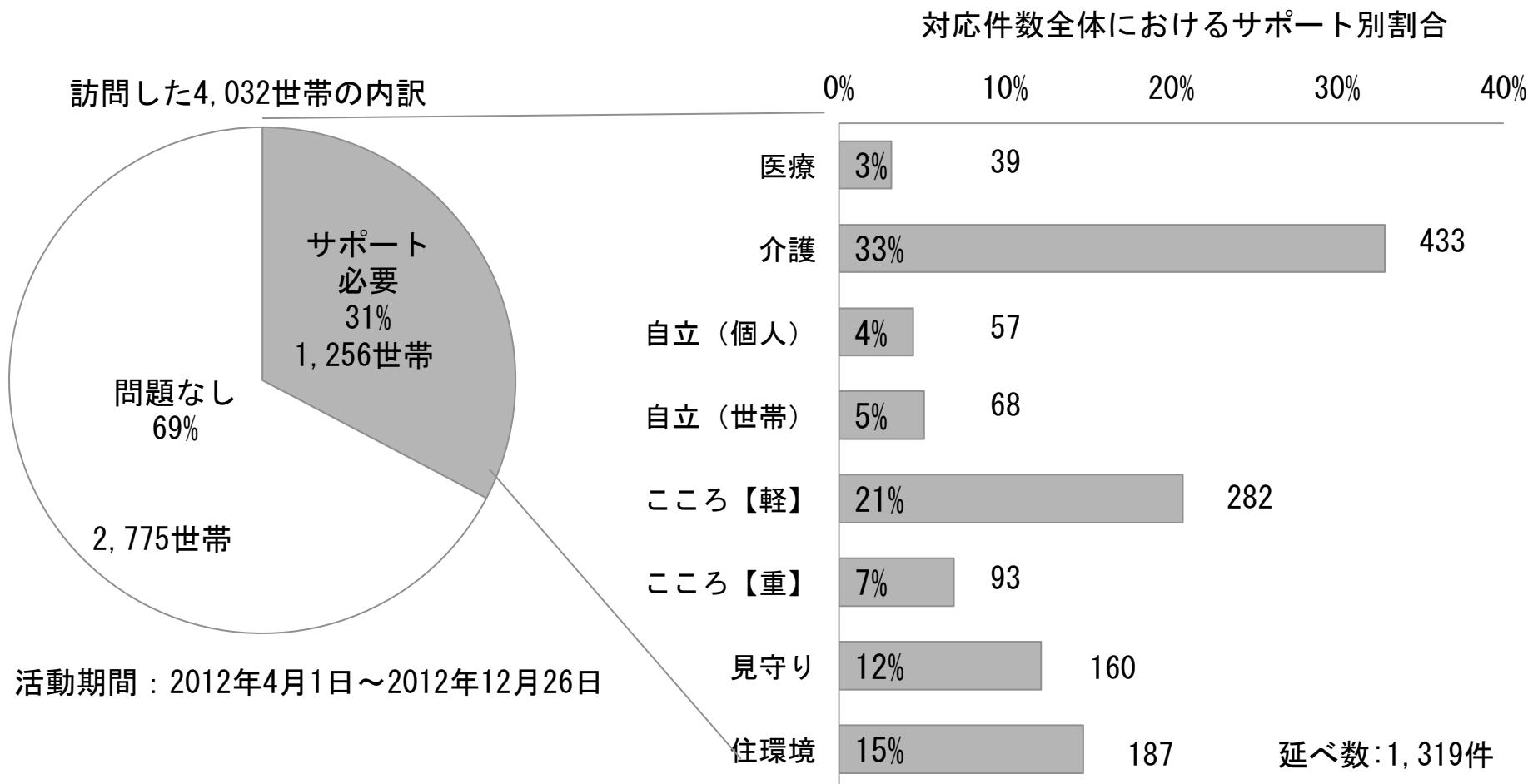
■「生きる希望がない、死んだ方がましだと思うことがありますか」という質問に対して、「ある」と回答した個人の割合、および個人数。



専門職サポート 活動報告

1. 専門職サポート サポート要否・サポート種類 判定結果

■サポートが必要だった世帯の割合と、サポート種類の分布



- 注1) 医療・介護・こころ【軽】/【重】・見守りは個人に対するサポートであり、住環境は世帯に対するサポートである。自立は個人・世帯それぞれに対するサポートを行っている。
- 注2) 上記は1世帯、1個人に対して複数のサポートが介入する場合も含む。

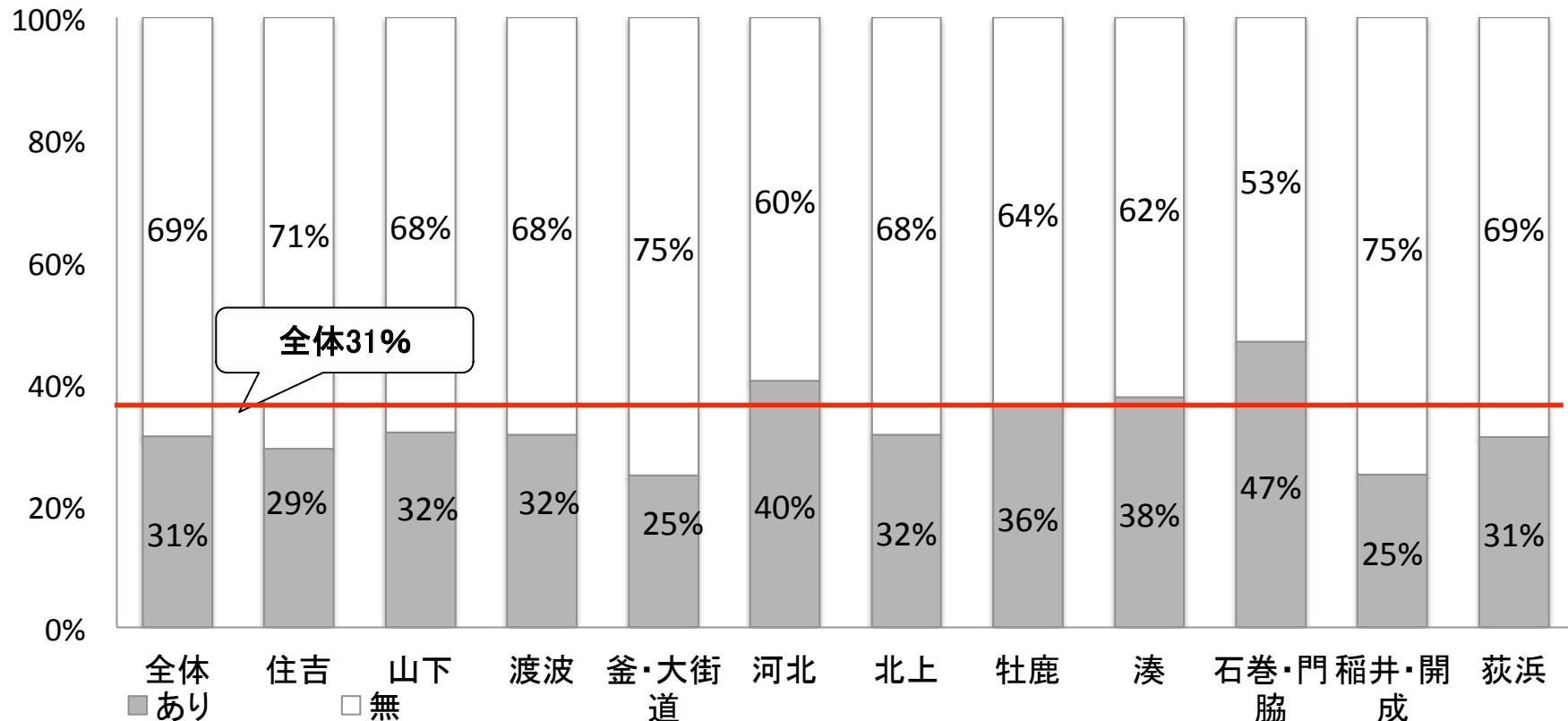
2. 専門職サポート サポート要否地域別判定結果

■サポートが必要だった世帯の割合と世帯数を地域別にしたもの

活動期間：2012年4月1日～2012年12月26日

	全体	住吉	山下	渡波	釜・大街道	河北	北上	牡鹿	湊	石巻・門脇	稻井・開成	荻浜
問題有	1,256	407	254	188	87	76	72	71	46	37	13	5
問題無	2,775	981	542	407	263	112	156	125	97	42	39	11

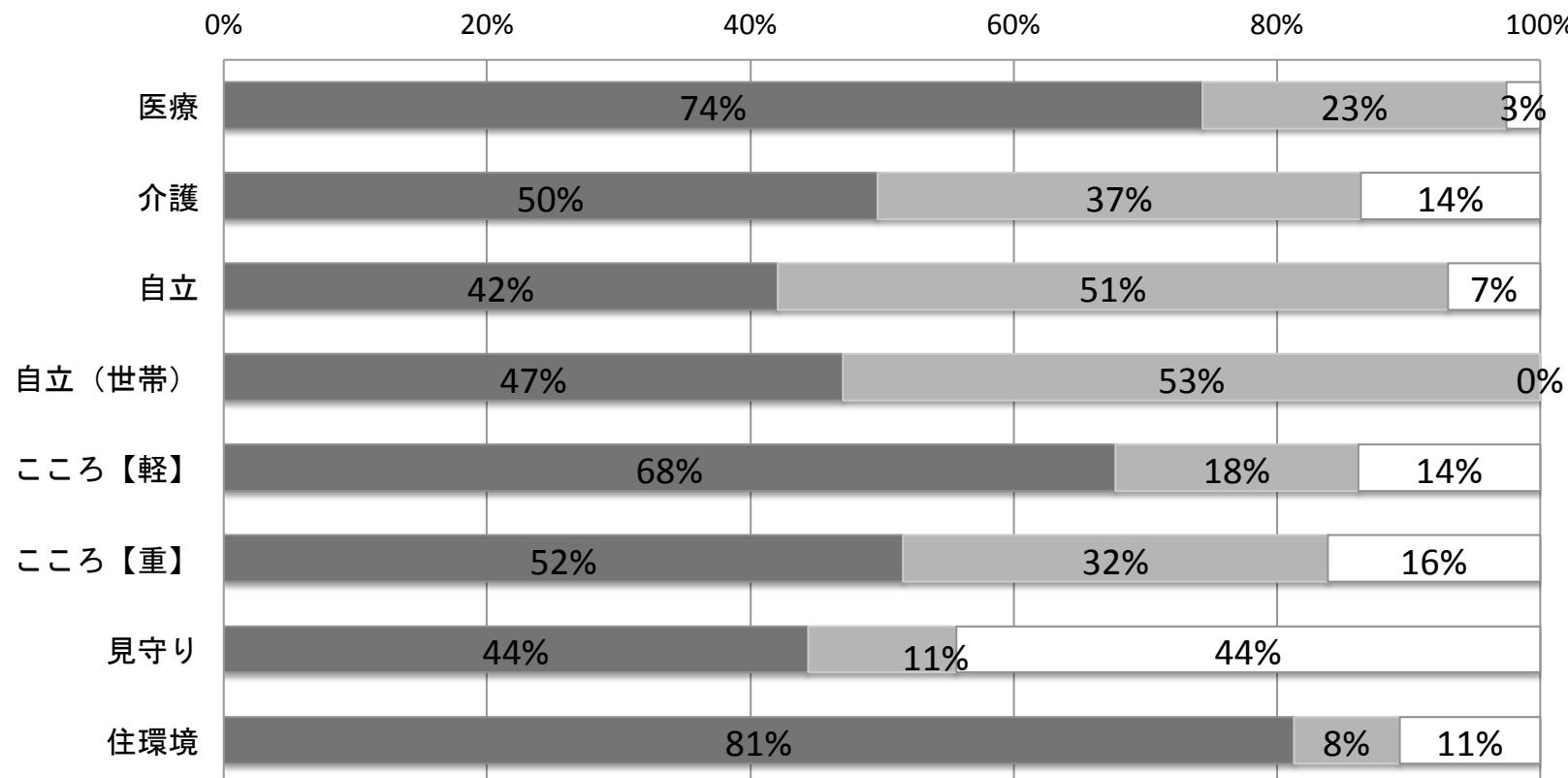
その他地域1件聞き取り



3. 専門職サポート 進捗状況

■専門職サポートの領域別進捗状況

活動期間：2012年4月1日～2012年12月26日



	医療	介護	自立(個人)	自立(世帯)	こころ【軽】	こころ【重】	見守り	住環境
完了	29	215	24	32	191	48	71	152
継続	9	159	29	36	52	30	18	15
未着手	1	59	4		39	15	71	20
総計	39	433	57	68	282	93	160	187

※数値は自立(世帯)、住環境のみ世帯単位、それ以外は個人単位

※見守りについては、すぐに専門職サポートが必要な世帯ではなく、孤立が懸念される高齢世帯へ調査から3ヶ月後に見守り開始

行政保健師、包括と活動の報告、事例相談を行っている

各地域の総合支所と、保健師、地域包括支援センターと検討が必要なケースについて、情報共有し対応を検討するケースカンファレンスを実施している。

2月以降、本庁地区でも同様に開催していく予定。

地区別ケースカンファレンス 今後の予定

【既に実施】

- 河北地区 1月24日 14:00~
- 牡鹿 2月7日 14:00~
- 北上 2月18日 13:00~

【今後実施予定】

- 渡波地区 1月23日 15:00~
- 釜・大街道地区 2月7日 13:30~ 場所：山下包括
- 住吉地区 2月5日 10:00~ 場所：市役所
- 稲井地区 未定
- 湊地区 未定
- 山下地区 未定
- 石巻・門脇 未定
- 荻浜 未定

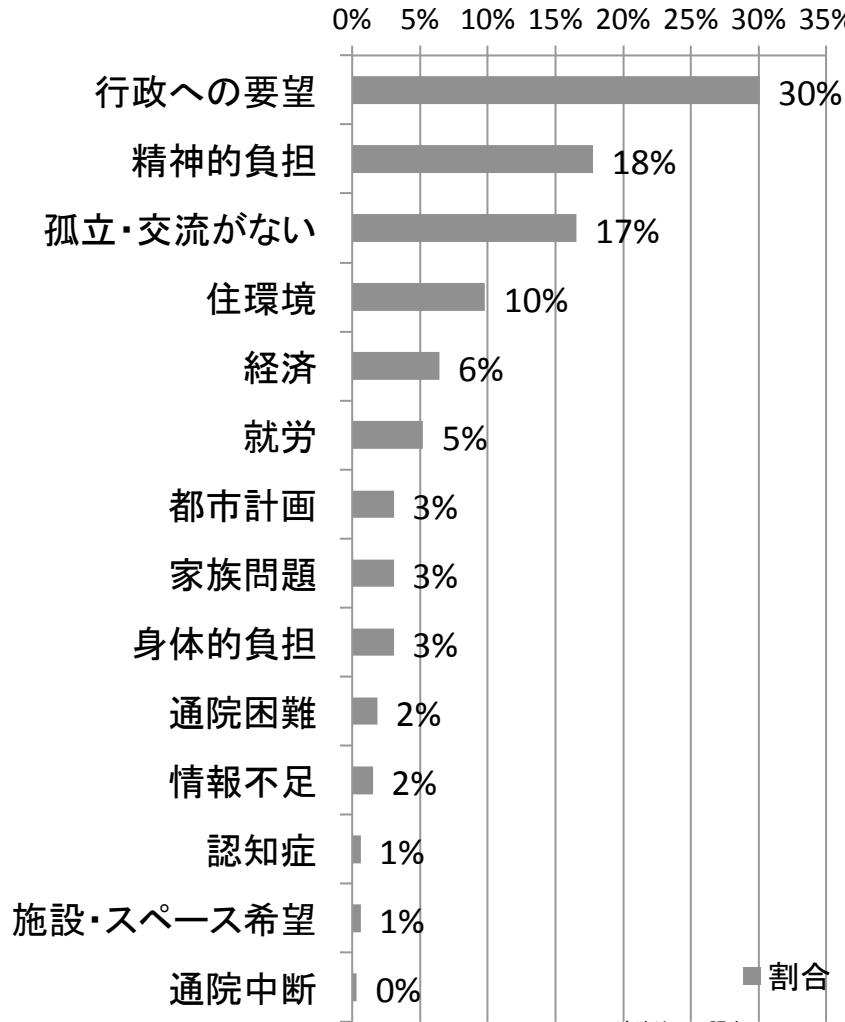
その他の活動報告

ー新しい取り組み：渡波MTGー

在宅被災世帯の問題 1

- 在宅被災世帯が抱える問題は、保健・医療・介護・福祉、さらに生活支援まで多岐にわたり複雑に関係している。その中でも主に孤立や、精神的な問題が深刻である。
- さらに、表に出てこない問題、自助では解決できない問題が多い。

■在宅被災世帯が抱える問題※（アセスメント時の住民の発言取りまとめ）



【精神的な問題がある】

- 生きがい喪失、将来不安など、希望を見出せない
- PTSDや身体異常などの精神面での症状を抱えている

【身体的な問題がある】

- 身体能力が低下、持病が悪化している
- 運動量(外出機会含)が減り、生活不活発傾向にある

【孤立・交流がない】

- 別離や職域・地域関係の喪失により、孤立している
- 近隣住民との関係が悪くなっている
- 人が集まる場や相談できる場が不足している

【介護問題を抱えている】

- (症状の悪化など)介護による身体・精神負担が大きい
- 認知症問題(症状進行、生活困難)がある

【その他】

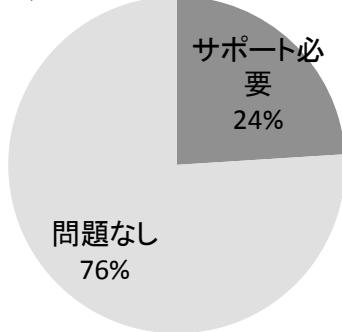
- 住宅の問題を抱えている
- 失業や資金の必要性が高まり、経済的に困窮している
- 就労できない
- 仮設住宅への支援との不平等感を感じている
- (通院などの)移動に困難を抱えている

在宅被災世帯の問題 2

- 問題があり専門職の支えを必要としている住民の割合は震災後1年目と2年目で変化しておらずむしろ増えている
- 制度、地域専門職、支援団体等により、住民が抱える問題の改善に努める動きは多数行われている。しかし、問題は膨大な量である
- 住民を支える支援者が連携し、地域一体となる必要がある

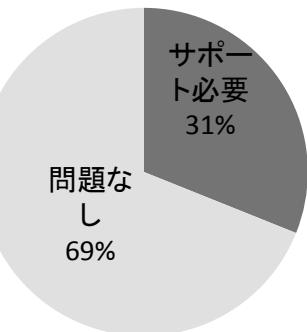
■ 震災後1年目

N=2,489



■ 震災後2年目 (2012年4月1日~2012年11月30日)

N=3,798



■ 震災後2年の住民の声

- 実家が流され、親族何人も亡くなった。友達も亡くなつた。まだ少し体調が悪いが、楽天的なので、救われている。以前は思い出すと、涙が止まらない。これからのことを考えると眠れない日が多い。
- 長男を震災で亡くしてから睡眠薬を服用しないと眠れなくなつた。
- 自宅がある人に対して何の支援もしてくれない(と涙ながらに話す)。経済的な不安が大きく、今後どうしていけば良いのかわからない。
- 今も求職中であるが、仕事が見つかるか不安で考えると夜も眠れない日が多い。
- 津波で全壊したり、引越し、亡くなつたなどで周りに家がなくなり、交流がなくなった。取り残された気持ち。
- 自立できる人はどんどん前に進んでいるが、立ち止まつたままの人はどうすればよいのか。
- 心の中の頑張らなくてはと思う気持ちが、絶望に代わっていきそうだ。

- 問題があり専門職の支えを必要としている住民の割合は震災後1年目と2年目で変化しておらずむしろ増えている

■ 現状の在宅被災世帯を対象とした健康・生活再建策

制度・専門職による支援

- 健康支援事業
健康調査、健康相談会、戸別家庭訪問等
- 自立支援事業
- 介護予防事業
- 生活習慣病重症化予防事業、栄養食生活支援事業
- 心のケア事業
- 地域コミュニティ活性化支援
- 法律相談事業
- 障害者サポート事業
- 介護保険事業、在宅医療等
- 要援護者支援事業
- 就労支援
- 住宅再建補助事業
- 生活保護等扶助

支援団体等による支援

- 健康・生活調査(訪問聞き取り)活動
- 医療・介護・福祉専門職による個別支援事業
- 医療・介護・福祉専門職による集団支援事業
- 地域コミュニティ活性化支援事業
- 移動支援事業
- 巡回見守り事業
- 自立支援事業
- 心のケア事業
- 住民の健康・生活実態のとりまとめ、報告活動 等

- 制度、地域専門職、支援団体等により、住民が抱える問題の改善に努める動きは多数行われている。しかし、問題は膨大な量である
- 住民を支える支援者が連携し、地域一体となる必要がある

地域とともに取り組む「渡波ミーティング」の取り組み

- 多岐にわたり複雑に入り組んでいる住民が抱える問題に対し、住民の健康と生活を支える関係者が協力し取り組んでいく
- 行政主導ではなく住民主体となり、住民自身が自らの地域をよりよくすることを考え、活動する潮流を創る

■ 現状のまとめ

在宅被災世帯が抱える問題は、保健・医療・介護・福祉、さらに生活支援まで多岐にわたり複雑に関係している上、表に出てこない問題、自助では解決できない問題が多い

問題があり専門職の支えを必要としている住民の割合は震災後1年目と2年目で変化しておらずむしろ増えている

制度、地域専門職、支援団体等により、住民が抱える問題の改善に努める動きは多数行われている。しかし、問題は膨大な量である
住民を支える支援者が連携し、地域一体となる必要がある

■ 今後の活動に求められるもの

- 地域の支援者が協働で問題に取り組む場が必要である
- 膨大な需要であること、また孤立の問題など、地域で取り組んでいく必要がある。
- 住民の生活再建、地域復興の主体は、現地である。外部支援者は地域の力を後押ししサポートする役割を務める

■ 地域づくり事業の渡波ミーティング

– 背景

震災後の住民が抱える問題は、多岐にわたり複雑に入り組んでいる。

住民を支える支援者で包括的に連携・協働することが必要である。

– 目的

1. 住民の健康と生活を支える関係者が協力し対策案を考え取り組める場を作る
2. 地域全体を俯瞰し、何が問題なのかを把握・解決できる仕組み作り
3. 行政主導ではなく住民主体となり、住民自身が自らの地域をよりよくすることを考え、活動する潮流を創る

– メンバー

- 渡波地域保健師
- 渡波地域包括支援センター
- 石巻医療圏 健康・生活復興協議会(RCI)
- オブザーバー: 石巻市立病院 開成仮診療所

ミーティングは、3つのステップで進める。

STEP1
地域住民の抱える問題点の特定

STEP2
問題点に対してのアプローチ方法の検討

STEP3
具体的な企画の実施・検証

STEP1

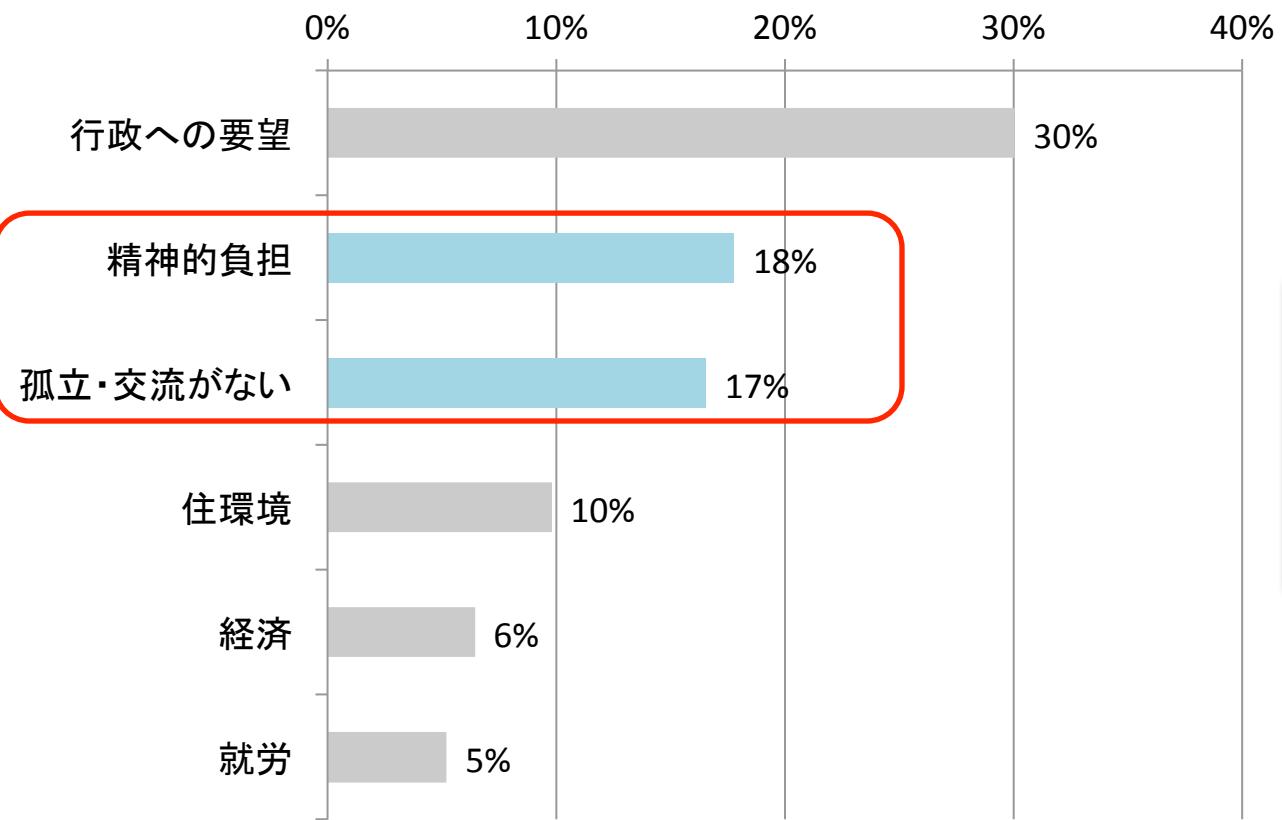
地域住民の抱える問題点の特定

渡波地区住民の課題は、「人とのつながりが薄い」である

RCI戸別訪問聞き取りで得られた「住民の生の声」を蓄積した「備考欄」を分析した。
渡波地区では「精神的負担」と「孤立・交流がない」という人との繋がりに問題を抱えている人、世帯が多いことが分かった。
渡波ミーティング参加者間で問題を共有したところ、問題意識は同じであった。

渡波地区 住民の声からみた問題(一部抜粋)

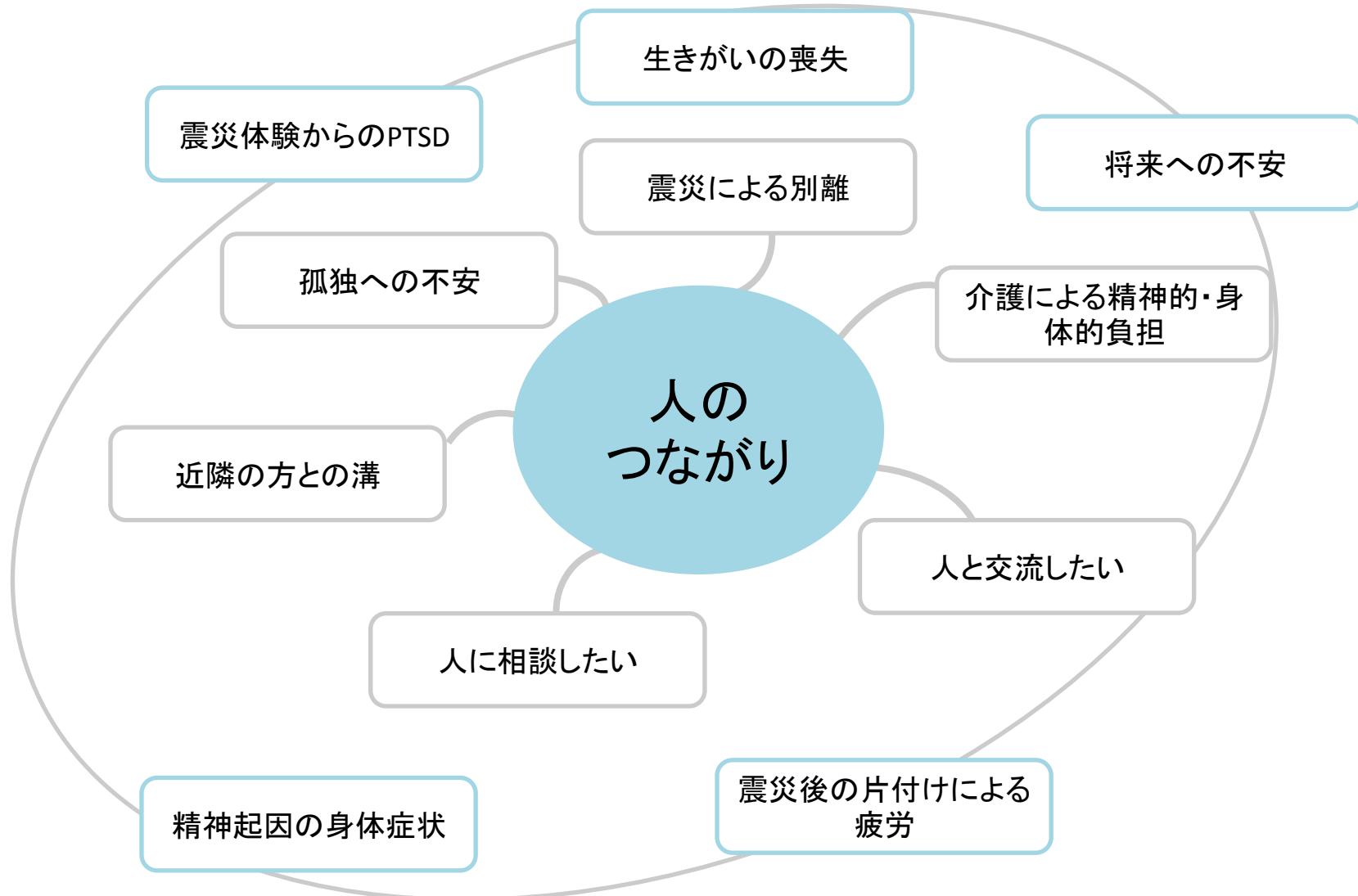
総数327



行政への要望、住環境、経済、就労問題は震災に起因する問題が多く、住民が抱える本質的な問題は、将来への不安という精神的負担、孤独への恐れのような孤立・交流がないという問題であり、対処が必要。
精神的負担、孤立・交流がないという問題ともに共通するのは人との接点がない(少ない)ということであり、人との接点が重要なキーワードになることが分かった。

人のつながりを構築することを目的に取り組む

人のつながり構築に取組むことで、その他の問題にも効果も期待できる。
その他問題までの効果を考えながら取組む。

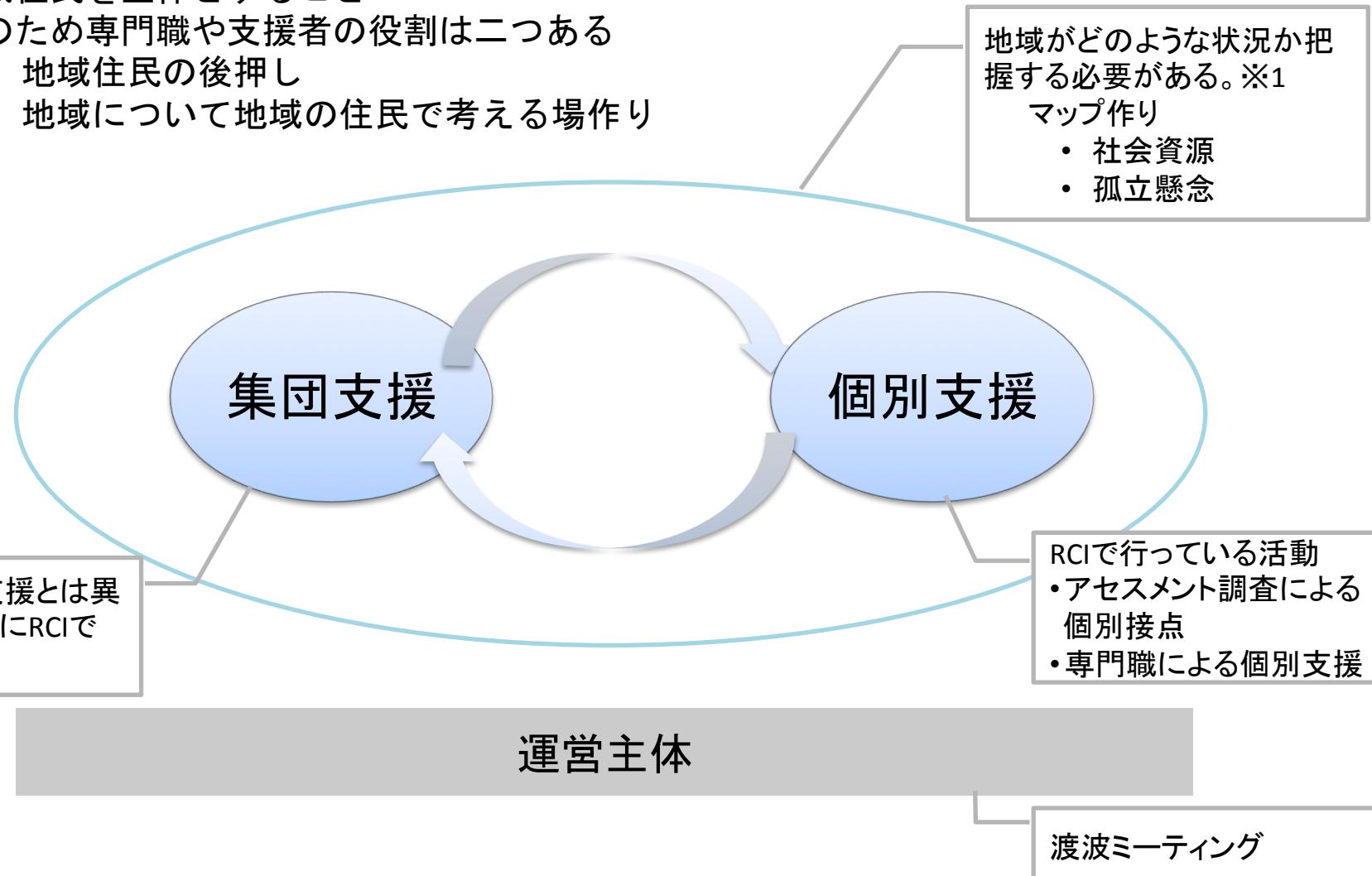


STEP2

問題点に対する アプローチ方法の検討

住民主体、地域を支える人を後押しする支援が必要

- 集団支援・個別支援を両輪として回していく
- 地域住民を主体とすること
- そのため専門職や支援者の役割は二つある
 - ・ 地域住民の後押し
 - ・ 地域について地域の住民で考える場作り



※2 RCIで孤立が懸念される世帯に対して集団支援に取組んだ

● 目的

孤立懸念される世帯を対象に、
参加者同士が知り合い、何かを
誰かと楽しむきっかけ作りを目的に開催

● 対象者

専門職サポートと、アセスメント調査か
ら抽出された「孤立」が懸念される人

● 日時、場所

- ①12月23日 AM 大街道会館
- ②12月23日 PM 山下会館
- ③12月24日 AM 渡波公民館
- ④12月24日 PM 祐コミュニティホール

- ・「自分はお客様だと思った」「自分は魚がさばけるので料理がしたい」という自ら何かをしたいとい
う主体性を持ちたいという感想。
- ・参加された方の多くは自分から参加できる方。ま
た関係が深い方からの誘いがあった方だった。

一緒に歌おう♪

歌っこ広場

さあ、集まって「うたっこ」。
一緒に童謡や懐かしい昭和の歌を
ギター伴奏にあわせて歌いませんか？

◆ 12月23日 (日)

10:00～11:30 大街道会館(大街道北3-4-112)
14:00～15:30 市民協・いしのまきハウス
(田道町1-15-2)

◆ 12月24日 (月)

10:00～11:30 渡波公民館(渡波町2-6-31)
14:00～15:30 祐コミュニティホール(水明北2-1-24)

ご近所お話し合わせ会の上、ご参加ください。
参加希望の方はご連絡ください。

お問い合わせ先

石巻医療圏 健康・生活復興協議会

住所：〒986-0815
石巻市中里3-12 在宅被災世帯サポートセンターB
電話：0225 23 9563 (午前8:30～午後5:30)
協力：移動支援イージーライダー (090-8567-6123)

- 地域の状況

- 社会資源マップ
- 孤立懸念マップ



- 孤立懸念者が“集積している”場所を把握できた
- 地域コミュニティ形成のインフラである「集会所」が機能していないことが分かった

- 集団支援の事例

- RCIクリスマスイベント
「歌っこ広場」

孤立懸念される世帯を対象に、
参加者同士が知り合い、何かを
誰かと楽しむきっかけ作りを目的に
山下・大街道・渡波・住吉で開催



- 大橋仮設団地の事例

- 「大橋メンズクラブ」

仮設団地で男性の集まりを住民が
主体となり企画運営して
継続している事例

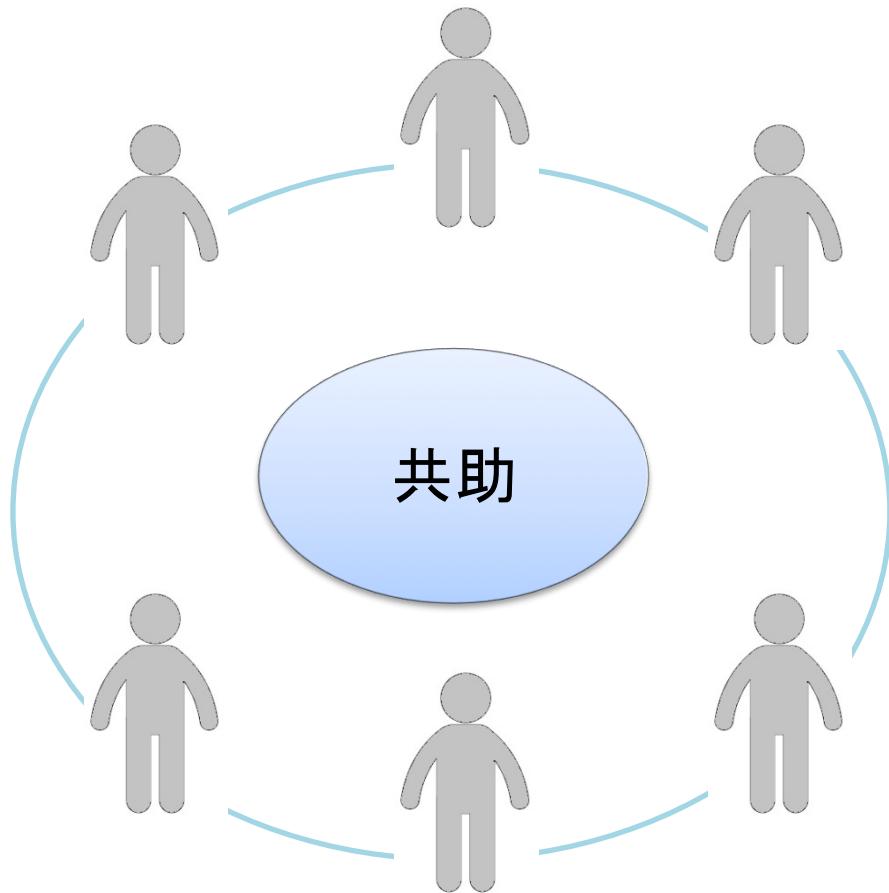
- 「自分はお客さんだと思った」「自分は魚がさばけるので料理がしたい」
→ 住民が主体となることが必要
- 参加された方の多くは自分から参加できる方。
また関係が深い方からの誘いがあつた方。
→ 孤立された方を社会参加に促すにはまず
地域のまとめ役となる人を発掘し、後押しし、
その地域の方から誘いだすステップが必要。
- 石巻市健康推進課の「大橋メンズクラブ」の事例
はまさに、仮設団地の集まりからリーダーが生
まれ、住民が主体となり継続してつながりを保つ
てている。そこから新しいコミュニティが形成され、
大橋仮設で集団移転したいというほど、地域の
きずなが強まった事例。

STEP3

具体的な企画の実施・検証

今後、渡波ミーティング参加と地域住民を含めた「地域を考える会」で具体的な企画内容や、実施時期などを決定する予定である。

地域の人が地域の人を支える「共助」に取組む



- ・ 共助の仕組みが必要
自力で解決する(自助)だけでは、問題が多岐にわたり複雑に入り組んでいるため難しい。

公で解決する(公助)に頼るだけでは、震災のような有事では公の負担が大きく、また継続性の視点から住民同士が支え合う仕組みでないと難しい。



「共助」が必要

- ・ 本当に困っている住民を支える住民を後押ししていくのが支援者の役割
- ・ 支える住民、支えられる住民が生きがいややりがいを持ち、共助できる仕掛けができるよう取り組む

リリース情報



当協議会の活動について、以下のように取り上げていただいています。
放送予定についても記載いたします。

12月24日	石巻日日新聞 第1面 絆が災害の回復力 -帝京大大学院が研究報告-
1月	日本医療企画 「介護ビジョン」 高齢者の生活を包括的に支える新たな社会システムを構築したい
1月	日本医療企画 「クリニックばんぶう」
1月7日 1月14日	NHK教育テレビジョン 「ハートネットTV」 未来へのアクション -File9 復興を支える“右腕”たち-
1月20日	NHK 東日本大震災プロジェクト 明日へー支えあおうー 「往診先生の挑戦 ～被災地に広がる在宅医療～

※平成24年12月12日～平成25年1月20日24:00時点での主なメディア掲載情報です。

参考 - 組織概要



団体名	石巻医療圏 健康・生活復興協議会
英語名	Health and Life Revival Council in Ishinomaki district (RCI)
設立	平成23年11月
	宮城県石巻市中里三丁目12 在宅被災世帯サポートセンターA 棟
連絡先	TEL 0225-23-9561 FAX 0225-23-9562 MAIL ishinomaki.rc@gmail.com
責任者	代表 武藤 真祐 (医療法人社団鉄祐会 祐ホームクリニック石巻 院長) 副代表 園田 愛 (" 事務局長) 副代表 生川 慎二 (一般社団法人高齢先進国モデル構想会議 理事)
活動概要	石巻医療圏での在宅被災世帯への健康・生活情報の戸別訪問聞き取り調査を行う。 その調査の結果、健康・生活面への支援を必要とする方に対し、協議会、専門職及び専門職団体（自治体・NPO・医療／福祉団体・民間企業など）との連携により必要なサポートを行う。
コア団体	医療法人社団 鉄祐会 公益社団法人日本医療社会福祉協会 東日本対策本部 一般社団法人 高齢先進国モデル構想会議
スタッフ数	45名（平成24年6月時点）
運営団体	一般社団法人 高齢先進国モデル構想会議
本件連絡先	TEL 0225-23-9561 運営本部事務局 逢坂 美幸



石巻医療圏
健康・生活
復興協議会